

国 語

③

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 問題は、問題一から問題三までです（1頁～14頁）。
4. 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入してください。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

国語

問題一 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあり、また、段落ごとに数字を記入してあります。

① ひととは子どもから大人になるものではありません。子どもとしてのじぶんをそこにおいて、ひとは大人というもう一人のじぶんになってゆきます。そこにというのは、じぶんのなかにです。子どもとしてのじぶんを見つめながら、ひとは大人というもう一人のじぶんになる。

I、大人のじぶんのなかには、じぶんがずっと見つめてきた子どものじぶんがあります。

II、大人のじぶんをずっと見つめている子どものじぶんがあります。

② III、じぶんのなかにいる子どものじぶんというのは、けっして懐かしい優しい存在なのではありません。子どものじぶんは、ときに思いがけない声で、ただし他の誰にも聞こえない声で、大人のじぶんを指さして叫びます。大人のじぶんが、子どものじぶんの存在を忘れてしまったようなときに、「きみはじぶんの希望をどうしちまったんだ？」と、こころの内側から叫ぶのです。その声は鋭く、そして憂わしげです。

③ 子どもは幼い人間なのではない。独特の小さな世界をもった人間なのだ。そう言ったのは、ロシアの作曲家のムソルグスキーです。『展覧会の絵』の作曲家は、また『子ども部屋』のような子どもの世界をえがいたすぐれた音楽をのこした人でした。ムソルグスキーの音楽のなかには、その音楽にじつと耳を澄ましている一人の子どもがいます。ムソルグスキーの音楽を際立ったものとしたのは、ムソルグスキーのなかの子どもです。

④ 子どもを独特の小さな世界をもつ人間にするものは、希望です。一人の子どものなかにいるのは、じぶんの希望といえるものを探している一人の人間です。けれども、ほとんどの大人たちは、希望というような言葉を、いまではちゃんとじぶんではつかえなくなっています。そして、じぶんのなかの子どもの叫び声には耳をふさいでいます。「きみはじぶんの希望をどうしちまったんだ？」

⑤ 希望というのは、たとえそれが何かいまはつきりとわからなくとも、じぶんというものが明るく感じられるような何かです。その明るさを背景にはじめて、子どもはじぶんの輪郭を知って、じぶんを一人のじぶんとして実感するようになるので、子どもを一人のじぶんとい

うものをもつ人間にするのは、希望という言葉でしか言いあらわせないような何かです。

⑥ 子どもが独特の小さな世界をつくる材料となるのが希望なのだとすることを、わたしに生き生きとおしえてくれたのは、幸田露伴の書いた子どもの本です。子どものときに初めて読んだのは『番茶会談』（一九一一年作）で、それは昭和の初めにでた改造社版の文学全集の一卷だった「少年文学集」におさめられたものでしたが、愛蔵しているのは、ずっと後になって古本市で手に入れた、小型本の「少年世界文庫」第一編としてでた『番茶会談』（小山書店、一九三六年刊）です。

⑦ 七人の少年が集まって、番茶を飲みながら、未来について、空想をほしのままに語りあう。話のルールは一つだけです。めいめいが自由活発に、手製の未来を語る。「われわれの未来はわれわれの手製でできるものと思うと、非常に愉快でもあり頼もしくもあるではありませんか。御手製！ 御手製！」

⑧ 露伴はそういう人でした。『番茶会談』だけでなく、露伴ののこした子どもの本には、つねに手製の未来をつくることを明るくはげます愉快な気分があふれています。

⑨ 手製の未来をつくるという志を希望というのだとのびやかに語った露伴の、「少年文学」とよばれた子どもの本のかずかずは、いまは岩波書店版露伴全集第十巻・第十一巻にはいつています。露伴の子どもの本は、明治という時代（一八六八—一九一二年）にあった、司馬遼太郎さんの言う「透きとおった、格調の高い精神でささえられたリアリズム」にみちっていて、明治という時代がまた近代の日本のいわば子どもの時代でもあった息吹きを伝えて、思いがけないほど新鮮です。

⑩ 『休暇伝』（一八九七年作）も、その一つです。山深い村の、村といってもそこに三軒かしこに二軒というようにとびとびに離れた家々が百戸ほどの辺地の、めずらしく高等科をそなえた吉水小学校は、明日から夏期休暇にはいるところです。正午ちかくになって、高等科を受けつつ先生が、最後の課業を終えた生徒たちに、声もすずしく話しかけます。話しかけるといふより、問いかけます。（引用は新字、新かなにより、漢字を適宜ひらがなにあためる。ただし独自の表記、ふりがなおよび句読点はそのまま。文中、引用者による摘略をふくむ。）

⑪ 時間も済みましたればすぐとみなさんお帰りなさっても宜しゅうござります。暑気のはなはだしいため今日かぎり休暇にはなりますが、これは学校でみなさんに授業をいたさぬというばかりで、学校へ出ませんでも、私も生きておりますから私は私だけに必ず何かいたして働きます。みなさんも生きていらつしやるうえはかならず何かしてお働きになるが宜しい。天を見ても地を見ても生命のあるものの働いておらぬはござりませぬ。かよう申しますればとて、毎日毎日複読をしたり算術をしたりいたしておらるるが宜しいというのではござりませぬ。遊びということはけっして無益なものではござりませぬ、大切な働きの一つでござります。暑中のことですから学事ばかりに身心を

つかって健康を損ずるようなことをなさるのは私の望むところではござりませぬ。むしろ愉快に活発に高尚に、精悍せいけんしく美しく遊んでいた
 だきたいのです。ただ大切なのは、かねてよく考えておいてじぶんのおもしろいと思う遊び方をさだめることです。そしてじぶんの遊びの
 結果を見るのです。みなさんめいめいに、じぶんの遊び方を考えて、何によらず結果のある遊びをなさい。宜しゅうございますか、みなさ
 ん、何をなさってもかまいませんから、遊びに主意というものを立てて、そして能く遊んで、遊び終わったときにわが遊びから生じたるこ
 とを観るといようになさい。どうです、みなさん。何をして遊ぼうかとわが遊びの主意を考えさだめるのもおもしろいことではござりま
 せぬか。そしてわが遊びをして遊びつづけるのも愉快ではござりませぬか。それからまたわが遊びの結果を観たときに、その結果が好かっ
 たら実に楽しいことではござりませぬか。

12 ここで、このように語りかけられているのは、ロー・ティーンロー・ティーンの生徒たちです。しかし、問いかけの言葉のもつ意味もさることながら、
 つよく印象にのこるのは、露伴が誌している先生の語りかけのスタイルです。明らかに先生は、じぶんの希望を探す人間に対する尊敬をもって、
 子どもたちに対しています。そこには、子どもたちの今を愉快にする、手製の未来への希望をなにより重んじる気もちが込められています。こ
 れはこの国の、百年まえの話です。

(長田弘「手製の未来」『子どもたちの日本』より)

注 そこに三軒かしこに二軒……あちらに三軒こちらに二軒。「そこかしこ」あちらこちら、いろいろな所。

問一 空欄 I ~ III に当てはまる適語を、それぞれア~エから選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

- ア あるいは
- イ ですから
- ウ もちろん
- エ ところが

問二 傍線部 A 「けっして懐かしい優しい存在なのではありません」とあるが、筆者は、「じぶんのなかにいる子どものじぶん」をどういう存在
 だと考えているのか、最も適当なものを、ア~エから選び記号で答えなさい。

- ア 他のひとは誰も知らないじぶんの欠点を厳しく指摘し、なぜそうなったのかをどこまでも追求する存在。
- イ 大人のじぶんが、じぶんの希望を忘れていることを厳しく指摘しつつも、そのことを心配する存在。
- ウ 純粹だった子どもの頃のじぶんを忘れていることを指摘し、それを取り戻せないことを悲しむ存在。
- エ 大人になったじぶんの欠点を指摘し、周囲の人たちに知らせようと大きな声で叫ぼうとする存在。

問三 傍線部 B 「希望」とあるが、筆者は「希望」とはどういうものだと考えているか、本文中から最も適当な一文を抜き出し、最初の七字で
 答えなさい。

問四 傍線部 C 「近代の日本のいわば子どもの時代でもあった息吹き」とは、どのようなことか答えなさい。ただし、「いわば子どもの時代でも
 あった」という比喩を、文中の内容や一般的な意味を考慮に入れながら、解答欄に従って四五字以内でまとめること。

近代国家として 希望に満ちた雰囲気

問五 『休暇伝』の引用部である⑪の中から、「先生」が最も伝えたい一文を抜き出し、最初の10字で答えなさい。

問六 以下は、傍線部D「そこには、子どもたちの今を愉快にする、手製の未来への希望をなにより重んじる気もちが込められています」について、生徒達が話し合った会話です。空欄Xに適切な内容を、①の中の語を使って、二五字以内でまとめなさい。

生徒A ここは本文の重要な部分だと思うんだけど、どう読めばいいんだろう。

生徒B まず、「そこには」を明確にすることが大切でしょう。直前の「明らかに先生は、子どもたちに対しています」という「先生の語りかけのスタイル」を指していると思うんだけど、それでいいのかしら。

生徒C 僕もそうだと思う。「語りかけのスタイル」を強調しているのが特徴的だよ。先生が大切にしたいと言っている「遊び方」ではなく、その「語りかけのスタイル」。これはどういうことなのだろうか。先生が生徒に敬語を使っているということかな。

生徒D それだけではないと思うわ。敬語を使っているのも確かだけれど、大切なのはその敬語が、表面的ではなく、ちゃんと相手を尊敬している心が、私たちに伝わってくることでしょ。

生徒A 確かに、先生の語りには生徒を尊敬している気持ちが表れているよね。でも、どうして生徒を尊敬するんだろう。ここには「じぶんの希望を探す人間に対する尊敬」と書かれているけれど。

生徒D 傍線部には「子どもたちの今を愉快にする、手製の未来への希望をなにより重んじる気もち」とあるわ。ここも同じような意味よね。どちらにも「希望」という語があるわ。

生徒B 「希望」を尊敬しているのかしら。「子どもたちの今を愉快にする」から？

生徒D 子どもだけではないわ。筆者は最初の方に「X」って書いているもの。「子どもたち」だけではなく、すべての人を愉快にするのよ。

問七 この文章の内容や表現に関する説明として最も適当なものを、ア～オから二つ選びなさい。

ア 「ひと」「じぶん」など、平仮名を多く使って、漢字をあまり学習していない幼い子どもにも読め、理解できるように配慮すると共に漢字が苦手な人にもわかりやすい工夫がなされている。

イ 読み慣れた漢字ではなく「ひと」「じぶん」などを平仮名で書くことで、その意味を改めて考えさせ、一般的な話ではなく、読者自身のこととして考えるように促している。

ウ 幸田露伴や司馬遼太郎など著名な文学者の文章を引用しているところに、自分の文章を権威付け、格調の高いものにしようとする筆者の思いがみられる。

エ 幸田露伴の『休暇伝』を引用することで、現代の教育から失われた教師から生徒への尊敬の念を思い出させ、生徒へのハラスメント発言を抑制しようとする意図がみられる。

オ 冒頭で大人の中にも子どもがいると示すことによって、以後の「今を愉快にする、手製の未来への希望」の話も子どもだけではなく、大人の話でもあることを示している。

問題二

以下の〈文章I〉と〈図表1〉は、高校生が総合的な探究の時間に、「海外で日本語を学ぶ外国人が日本語を学ぶ理由」を通して日本語・日本文化について考える際に扱った資料である。文章と図表を参考に設問に答えなさい。なお、設問の都合上、一部表現を変えているところがあります。

【文章I】は、生徒たちが参考文献として活用した文章

【図表1】は、「海外で日本語を学ぶ外国人が日本語を学ぶ理由」が表にまとめられた資料 (国際交流基金『海外の日本語教育の現状 二〇一八年度日本語教育機関調査より』より)

【文章I】

フランス語にタタミゼtatamiserという言葉があります。古くからの由緒ある言葉ではないので、日本の大きな仏和辞典にもまだ載っていないようですが、このタタミゼは日本語の畳(たたみ)という言葉をフランス語のIにしたものなのです。これがいつ頃から使われ始めたものかは良く知りませんが、おおよその意味は「日本かぶれる、日本真(ま)になる」と言ったようなところでした。

初めは万国博覧会かなにかで日本が大好きになったフランス人が、家中に日本の浮世絵や美しい扇子を飾ったり、部屋の入り口には竹のすだれを、そして床には日本の畳を敷いて座つたりするといった、日本情緒あふれる暮らしを楽しんでいるのを見た周りの人が「あいつはタタミゼした」、つまり日本かぶれたとからかい半分、呆れ半分に言った言葉のようです。それが今では、日本に派遣されたフランスの新聞社の特派員や商社マン、そして外交官などが、何年か経ってフランスに戻ると、周りの人が「やつはタタミゼしたぞ」などと、日本という異文化の影響で「日本ばけした」といった意味でも使う言葉になったらしいのです。

ところが二〇一一年の十二月、私が政策研究大学院大学の日本語教育指導者養成プログラムの十周年記念シンポジウムで講演するために、東京六本木の校舎に赴いた際、この式典に招待されて再来日した、数名の各国からの以前の卒業生と雑談しているときに、一人が日本語を学習するとタタミゼになるという言葉を使ったのです。ハツとした私が、他の人にタタミゼって分かりますかと聞くと、この言葉は留学生の間ではよく使われていて、久しぶりに自分の国に戻ると、つい日本で身についた色々な癖が出て、周りの人と調子が合わないことが間々あることを指して言うのだそうです。時間がなかつたので残念ながら詳しくは聞けませんが、やたらと「済みません」と言ったり、直ぐ謝ったりしてしまうということがあります。

私は以前から英語を得意にする日本人の学生たちが、英語で議論するときには、かなりはつきりと自分の意見や考え方が言えるのに、日本語で同じことをしようとすると、なんだか巧く事柄を説明できなくて困ることがあると言っているのを知っていました。そこでもしかしたらこのこともタタミゼの問題とつながる、日本語と西欧語がそれぞれ持つ、言語と文化の異なった性格に関係した、本格的に研究すべき現象だと考えるようになったのです。そこで先ず私が、どのような外国人日本語学習者の反応や意見を、タタミゼの具体例と見ているかを、何人かの人々の文章を引用することで示したいと思います。(中略)

〔タタミゼ〕の具体例A) (ハーバート・パッシン『米陸軍日本語学校―日本との出会い―加藤英明訳より〕

外国語を学ぶということは、新しい情報体系を吸収するだけでなく、自我を大きく変貌させる複雑な過程でもある。自我が実質的に再構成されるわけである。しかもこの過程は、心理領域がからむだけでなく、生理領域も関連をもつように思われる。私はいくつもの言語を話す、ある言語からある言語へと使う言葉を変換すると、自分の人格も身振りも動作もそして頭脳構造の枠組までも、それに合わせて姿を変えてゆくの

がわかる。少なくとも私にはそう思えるのである。

フランス語を話す、実際にはそういうことはないかもしれないが、自分が頭脳明晰、論争好きで、説得上手になったように見え、同時に口先ばかりの逆説的で意表をつく人間になったような気になる。フランス語はどちらかというと「口説き」に力量を発揮する言語のようである。

しかし、スペイン語に切り替えると、また別人のようになる。正しいリズム、イントネーションを保とうとして、私の身振りは、メキシコ人そのものになってしまう。内に力がみなぎり、自分が「男のなかの男」になったような錯覚に陥る。かなり高圧的、独断的になるが、その反面詩人にもなる。俗っぽくもなるし、快楽的になる場合もある。

ところが、日本語を話すたびに、自分はこんなにも礼儀正しい人間になれるものかと、自分で驚いてしまう。こういうことは、英語を話すときは一度も感じたことはない。

言葉が異なると、別人になった意識を持つのである。人にも異なった反応をするし、同じ事物でもいささか違ったように受け取ることもよくある。視覚が違ってくるのかもしれない。(中略) 言葉を切り替えると、心までが位置を変えてしまう。私はよく、そのときしゃべっている言葉の国の人間に間違われるが、さもありませんと思うのである。(中略)

〔タタミゼ〕の具体例B) (加藤恭子編『私が愛する日本』「私は日本のことが好き」より)

(東海) 大学での柔道の練習が、日本の理解を深めるのに大いに役立ったような気がします。武道場での雰囲気は、日本の社会の構造、文化、伝統をよく反映しています。伝統や年上の人に対する尊敬の心、先輩と自分との関係、厳しい規律、そして何よりもルールを守らなければなら

ないこと。日本では「ルール」が本当にきつちりとしています。そう、もし何か決まったら、もうほかの動きはできなくなります。変更は決してありえません。また、日本の人は、自分のことだけでなく、周りにとっても気を遣います。自分の庭だけでなく、家の前の道もきれいに掃いたりしますよね。日本からロシアに帰国すると、モスクワの友人たちに「日本人になったみたいだ」と冗談を言われるぐらい、自分でも気づかないうちに、いろいろな面ですっかり日本人に近くなったようです。人あたりの柔らかさ、柔軟な態度、否定したい時の答え方は、「いいえ」ではなく「検討します」と言うようになったからでしょうか。(笑)(中略)

このようなタタミゼ効果が、およそ「II」をもって貴しとなす」の日本とは全く反対の、長い民族間の対立抗争の歴史を持つ欧米人たちに、実際どれだけの深い変化をあたえることが出来るかは、やってみなければわかりませんが、このタタミゼ効果が次の例のように、日本を離れて久しい日本人にさえも作用することを私は知っておどろきました。

スウェーデンの方と結婚されてヨーロッパ生活がすでに三十年にもなるデュラン・れい子氏が、わずか数ヶ月日本に戻られて、「再びヨーロッパに帰ると、あちらの友人に『れい子は半分ヨーロッパ人だと思っていたけど、なんだか日本人に返ってしまったね』と言われる」と書いておられます。「なんで? どのくらいでわかるの?」と聞いても、『うーん、何となくそう感じる』という返事。人間は暮らす環境に順応していくものなのですね」

これはまさに逆タタミゼ効果が起こっていると考えられます。日本の社会に充滿している日本的なるもの、つまり日本語や日本文化の力は、デュラン・れい子氏のような半ばヨーロッパ化した日本人をも、あつという間に日本的な雰囲気の中に引き戻してしまうほど、強力な粘性を持っているのです。私はこの粘性を何とか国外に広げることによって、世界、特にヨーロッパ社会の人間関係にある棘とげの毒を中和させる夢を持っているのです。

このタタミゼ効果は、その人の周りの日本人のタイプ、その人の職業などによってその効果の表れ方が違うようです。例えば外国人相手の日本人の教師は、外国人学生に対して、日本語の発音、文法だけでなく、語用論的な問題、たとえば日本の社会での言語行動の特徴について、日本語は相手の気持ちを察する高文脈言語であるといったことなども教える、つまり結果として学生をタタミゼ化する教育を積極的に行っていることとなります。したがって学生たちにタタミゼ効果が表れやすいと言えます。

(鈴木孝夫『日本の感性が世界を変える 言語生態学的文明論』より)

(図表 1) 「海外で日本語を学ぶ外国人が日本語を学ぶ理由」(複数回答可)

外国人が日本語を学ぶ理由	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	歴史・文学・芸術等への関心	アニメ・マンガ・J・POP・フアツシヨン等への興味	政治、経済、社会などへの関心	科学・技術への興味	日本語そのものへの興味	日本語を使っての受験や資格取得	日本への留学	将来の仕事・就職	日本への観光旅行	日本との親善・交流
国・地域	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
韓国	33.2	58.4	1.9	5.6	18.4	16.8	14.7	9.8	38.9	1.3
(ア)	51.5	75.6	46.1	45.2	59.1	59.7	65.3	55.4	35.6	9.1
(イ)	31.8	34.7	13.4	20.3	37.9	30.8	48.3	45.7	13.4	7.8
(ウ)	50.3	86.6	13.4	28.4	80.0	48.4	67.1	48.2	53.4	15.8
米国	81.9	90.0	31.0	32.2	85.8	19.2	63.8	54.8	65.6	20.2
(エ)	83.4	86.0	36.2	31.0	81.2	26.6	62.9	59.0	54.1	31.0
(オ)	26.1	29.8	5.0	8.4	30.1	3.2	9.5	12.4	21.8	7.9
*全世界	52.4	66.0	19.4	28.0	61.4	31.3	46.7	41.1	41.1	15.5

国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2018年度日本語教育機関調査より』より一部改変
*全世界: 142か国・地域で実施した調査の平均値

問一 【文章I】の空欄I、IIについて次の指示に従って答えなさい。

- (1) 空欄Iに当てはまる品詞名を漢字で答えなさい。
 (2) 空欄IIをもって貴しとなす』は、聖徳太子(厩戸皇子)が起草したとされる十七条の憲法の第一条にある文言からの引用部分である。空欄IIに当てはまる語を漢字一字で答えなさい。

問二 傍線部A「言葉が異なると、別人になった意識を持つのである」について、英語を得意とする日本人学生たちのケースが【文章I】で紹介されている。次の空欄 X、Y に当てはまる内容を【文章I】から、それぞれ一五字以内で抜き出しなさい。

英語を得意にする日本人の学生たちが、英語で議論するときには、はっきりと X のに、日本語で同じことをしようとする
と、 Y ことがあるということ

問三 【文章I】の傍線部B「タタミゼ効果」とはどのような効果か、次の空欄 Z に当てはまる適当な内容を答えなさい。ただし、「タタミゼ」の具体例A」と「タタミゼ」の具体例B」の文言をそれぞれ用いて、三五字程度でまとめること。

日本語を学習したり、日本語を話したりするようになると、 Z という効果

問四 【文章I】の傍線部C「日本語は相手の気持ちを察する高文脈言語である」とあるが、この特徴が成り立つことから生じた日本人のコミュニケーションの在り方を表した最も適当なものを、ア～オの中から二つ選り記号で答えなさい。

- ア 言はぬは損
- イ 以心伝心
- ウ 雄弁は銀
- エ 阿吽あうんの呼吸
- オ 言はぬことは聞こえぬ

問五 次の生徒の会話は、【文章I】をもとに【図表1】を参考にして話し合われたものである。

- (1) 空欄 i に当てはまる語句を【文章I】から四字で抜き出しなさい。
- (2) 空欄 ii に当てはまる語句を【文章I】から五字で抜き出しなさい。
- (3) 空欄 iii に当てはまる理由を【図表1】の①～⑩の番号で答えなさい。
- (4) 空欄 iv に当てはまる日本語を自分で考え、ひらがなで四字で答えなさい。
- (5) 【図表1】において(i)フランス、(ろ)中国、(は)ブラジルはア～オのどれに当たるか、記号でそれぞれ答えなさい。

生徒A 【文章I】を読むと、フランスには「タタミゼtatamiser」という日本語から取り入れられた言葉があることが分かるね。

生徒B 「タタミゼtatamiser」という言葉は、もともとは日本が大好きになったフランス人が家中に浮世絵や扇子を飾ったり、部屋の入り口には竹のすだれ、床には畳を敷いて座つたりといった i あふれる暮らしぶりを見た周囲の人が「あいつはタタミゼした」とからかい半分に言った言葉のようだと「文章I」には説明があるね。

生徒C また、【文章I】には「タタミゼになる」例として日本で学んだ留学生が久しぶりに自国に戻るとやたらと ii と言ったりしてしまつて周りの人と調子が合わないことがあげられているよ。

生徒B 日本人は ii を頻繁に使うけど、外国ではあまり使わないだろうね。言語によって習慣や文化が形成されているんだね。

生徒A 日本の芸術や文化への興味・関心から日本語を学ぶようになった外国人はたくさんいるということが想像できるね。【図表1】「海外で日本語を学ぶ外国人が日本語を学ぶ理由」を見てみると、フランスは他国と比べて、理由①「歴史・文学・芸術等への関心」から日本語を学んでいる人の割合が高いことが分かるね。

生徒B 理由①の割合は米国も高いけれど、フランスは、理由③「政治、経済、社会などへの関心」、理由⑩「日本との親善・交流」でも、その割合は米国を上回っているね。

生徒C 中国では、理由①や理由⑩の割合はそれほど高くなく、全世界の割合より下回っているけれど、理由③「政治、経済、社会などへの関心」理由④「科学・技術への興味」から日本語を学ぶ人の割合は高く、全世界の割合を大きく上回っているね。

生徒A ブラジルでも理由①や理由⑩の割合は高くはないけれど、理由②「アニメ・マンガ・J・POP・ファッション等への興味」、理由⑦「日本への留学」から日本語を学ぶ人の割合が高く、それぞれの割合はフランスの割合よりも高くなっているね。

生徒B 国によって日本語を学ぶ理由の違いがあることがよく分かったけれど、全世界を見ると理由 iii の割合が一番高いことが分かるね。

生徒C 理由 iii から、日本で専門的な知識や技術を学び、専門学校や大学に留学したいと考える外国人青年がたくさんいると新聞記事でも見たよ。私たち日本人も、世界が興味・関心を持っている日本語・日本文化を改めて見直す必要があるのではないかな。

生徒A 私は「大きいものや強いものを好む外国人が小さいものや優しいものを好むようになったきっかけとなった」 iv という形容詞と日本文化」というテーマでレポートを書いてみたい。私の好きなキティちゃんは「 iv 」の代表とも言えるキャラクターだからね。

問題三

次の問にそれぞれ答えなさい。

問一 次のⅠ～Ⅳの傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 尊敬語と謙ジョウ語の違いを学ぶ

ア 最北端の酒屋でジョウ造する

イ 土ジョウを改良し畑にする

ウ 時にはジョウ歩することが大切だ

エ 台風を防ぐ頑ジョウな建物が必要だ

Ⅱ 多くの労力をツイヤした

ア ヒ害者の気持ちを考える

イ 毎日の残業でヒ労がたまっている

ウ 石ヒに刻まれた文字を読む

エ 生産者は消ヒ者のことを考える

Ⅲ マシユマロを焼くとフクラむ

ア ボウ大な量の文献を読む

イ バスの通行をボウ害する

ウ 知人の裁判をボウ聴する

エ 国のボウ衛について考える

Ⅳ 美ジ麗句

ア 優勝したことをジ慢気に話す

イ 日本はジ震が頻繁に起きる

ウ 英語は電子ジ書を使っている

エ ジ件を起こしてはいけない

問二 次のⅠ～Ⅲの傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

Ⅰ 文書の体裁を整える

Ⅱ 誰の仕業か分からない

Ⅲ 友人同士の会話が弾む

問三 次のⅠ～Ⅲの傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

Ⅰ ボランティアにソツセンして取り組む

Ⅱ 外国の文化をそのままジュヨウする

Ⅲ 土器に模様をキザみこむ

